舟　は　スローライフ・持続可能社会　の　先進役　　2025 年 6 月

お 江 戸 舟 遊 び 瓦 版　1104 号

水彩都市江東　　こころ美しい日本の再生　　安全・安心まちづくり

お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会　　江東区千田 13-10

「若者に不戦非核の願いを引き継ぐ集い」　　テーマ：シベリア抑留を語り継ぐ

日時：25 年 6 月 8 日（日）10 時～12 時
所：飯田橋セントラルプラザ AB 会議室

開会の辞：恩田芙美

・ 1945 年、戦争が終結したにもかかわらず、シベアをはじめとする、旧ソ連やモンゴルの酷寒の地において、乏しい食料と劣悪な生活環境の中で、過酷な強制労働に従事させられた戦後強制労働者は約 57 万 5000 人にのぼり、そのうち約 6 万人が故郷に帰ることなく命を落とした。今年は 80 年の節目、一緒にシベリア抑留について考えたい。
　恒久平和と命の尊厳を柱に活動し、次世代の人たちに継承する場を立上げるため呼び掛けた。

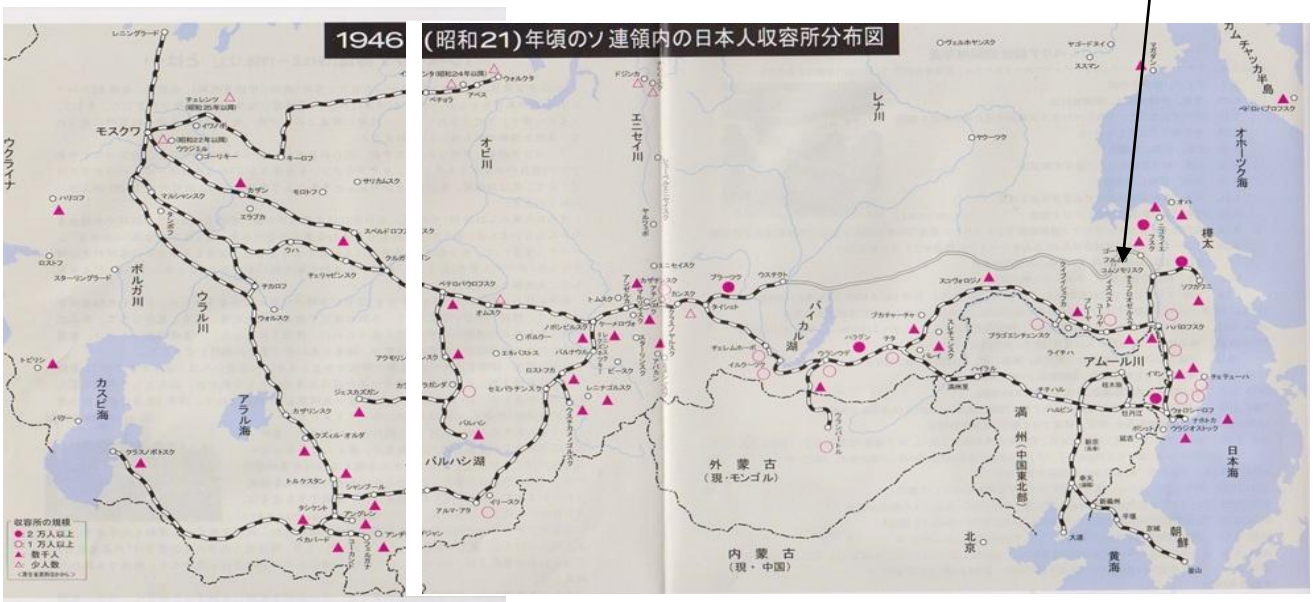
来賓挨拶：永田浩三（武蔵大学名誉教授）

・ 共創みらい塾発足に注目している。
・ ＮＨＫ退職後、武蔵大学社会学部に転じた。NHK時代から注目してきた詩画人・四国五郎が戦争とシベリア抑留を書いた『わが青春の記録』をゼミ学生が取り上げ、制作した自主映画『悲劇のケイショウ』を観て欲しい。
　その中で、本日の語り部西倉勝さんの新宿の平和祈念展示資料館における語り部お話し会「シベリア抑留」が大きく登場し、シベリア抑留について、体験者として貴重なお話をされている。

（注）平和祈念展示資料館は、新宿住友ビル 33 階にあり、総務省委託で、展示、展示解説だけでなく、語り部お話し会、ビデオシアター、体験コーナー、情報メディアコーナー、音声ガイド、館内イベント、地方巡回展など多様な取組を行っている。平和祈念展示資料館(総務省委託)

体験を語り継ぐ　　西倉勝（平和祈念展示資料館 語り部、年金相談員 30 年社会保険労務士）

・ 1925 年 5 月 10 日生まれ、新潟県刈羽郡二田村（現柏崎市）で生まれ、商業学校を繰り上げ卒業後、日立航空機立川工場に就職。1945 年 1 月に召集、新発田連隊から出征。朝鮮北部とソ連との国境付近に配属された。終戦後、ソ連軍に武装解除され、シベリアに抑留され、厳寒のコムソムリスクで 3 年間、強制労働に従事した後、1948 年 7 月ナホトカから舞鶴港に帰国。



・ **NHK world 放送：ビデオ**を見せて頂き、経歴とシベリア抑留時代のこと、その語り部を新宿にある平和祈念展示資料館で続けていることが報じられた。
　厳しいシベリア抑留時代について、厳寒の地での厳しい労働、足りない食、仲間の死亡などを語り、決して戦争はしてはならない。これからも、人と人とがしっかりと交流し、戦争は本当にいけないことだという結論に至ることを願っていると語られた。

・ **シベリア抑留概要**
　送られた先は、シベリアだけでなく、モンゴルや中央アジア（現在のウズベキスタン、カザフスタン、キルギスなど）から、西はヨーロッパのモスクワ近く、北は北極圏、東はカムチャッカ半島にまで及ぶ。収容所は 2300 以上と言われる。送られた軍人は約 60 万人、その中には民間人や女性、子供もいた。朝鮮や台湾出身の軍人もいた。氷点下 40 度を下る寒さと食糧不足、厳しすぎる労働で、約 1 割の 6 万人以上が亡くなった。捕虜を速やかに家族の元に返すとした「ポツダム宣言」にも、捕虜の人道的な取り扱いを定めた「ジュネーブ条約」にも違反した大規模な拉致事件だった。

・ **スターリン極秘指令**
　1945 年 8 月 23 日に、ソ連の指導者スターリンが出した秘密指令によって、移送・抑留が始まり、各地の炭鉱や鉱山、建設現場、工場、農場等で、第 2 次大戦で失われたソ連側の労働力を補うために、使役された。一番過酷だったのは、鉄道建設のための森林伐採や敷設作業で、極寒の森の中で多くの犠牲者が出た。大半の捕虜・抑留者は 3～4 年で帰国できたが、長い人は 1956 年迄 11 年間もソ連で抑留され、戦争犯罪者やソ連の国内法違反者として裁かれ、囚人として牢獄で暮らした人もいる。1956 年に「日ソ共同宣言」が調印され、引き揚げ船「興安丸」が舞鶴に返ってきた。
　亡くなった人たちは、戦闘でなく食料・医薬品不足のため栄養失調と病気で、静かになくなっていった人がほとんどでした。50 万人を超えるほぼ全員の資料がロシア側に残されており、亡くなった方の埋葬地も特定されているが、収集され、帰国できた遺骨はまだ半分にも達していない。
　収容所の中では、当初の日本人の軍隊組織が解体され、民主化を求める運動も起き、日本人同士で対立、抗争もあった。帰国後も大半の元抑留者は「共産主義者」ではないかと警戒され、「シベリア帰り」と呼ばれ、就職差別や、地域でも疎外された。そのため、元抑留者の多くが、体験を家族にも話すことなく、つらい記憶として胸に秘めて戦後を送ってきた。敗戦時に海外にいた軍人らは約 310 万人で、その中に 5 人に 1 人がソ連に送られた。戦後の歴史の中であまり知られていない、教えられていない事件であり、見直すべき悲劇だ。今も実態解明努力が進められている。

読売新聞 1992 年 6 月 3 日
「日本軍捕虜50万人移送せよ」
ГОСУДАРСТВЕННЫЙ КОМИТЕТ ОБОРОНЫ
スターリンが極秘指令 全文入手
47収容地、詳細に
シベリア抑留の原点
日にシベリア抑留が始まった事実を報道

・ **グループ交流**
　参加者が 9 グループに分かれて、自己紹介や意見交換を行い、グループ交流し、改めて戦争の悲惨さ、シベリア抑留のことを話し合い、知ることになった。

・ **おわりの挨拶：上蕨代表**
　戦争は大犯罪だ！
　決してしてはならない！
　ありがとうございました。

所感：アメリカト・トランプの暴走の中、ウクライナ・ロシア戦争、イスラエルのガザ侵攻などが続く世界激動の時代を迎えている。満 100 歳の西倉さんの講演は大変勉強に、参考になった。
　情熱一杯の上蕨さんの想いに引っ張られ、若者に引き継ぐ“共創みらい塾”が走りだした。若い方が中心に、戦争のない非核・平和日本の学びの場になることを祈念したい。（文責　中瀬）